

気仙沼市新庁舎建設基本構想策定に向けた 「市民との意見交換会」 開催概要

日 時：令和元年 8 月 25 日（日）
午後 1 時 30 分～午後 4 時 10 分

場 所：気仙沼市役所ワン・テン庁舎 2 階 地域交流センター大ホール

対 象 者：『震災復興計画』『まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」』『第 2 次総合計画』などの計画策定，進行管理に携わられた方々（約 140 名）並びに現役高校生（数名）
※一般の方も傍聴可能

出席数：101 名（参加者 52 名，傍聴者 42 名，報道 7 名）

内 容：これまでの新庁舎建設基本構想策定有識者会議での検討状況について説明し，新庁舎整備に係る「基本理念・基本方針」，「導入する機能・性能」「建設候補地の選定」等について意見交換を行った。

配布資料：・気仙沼市新庁舎建設基本構想策定に向けた「市民との意見交換会」説明資料
・アンケート調査票

意見交換の概要

（1）基本理念・基本方針について

【質問】

- 財源として合併特例債が活用可能とのことですが，現位置となった場合，仮設庁舎の整備費や移転費等も含めて活用できるのでしょうか。
基本理念に「誰にも優しく開かれた庁舎」とありますが，仮移転となると，市民サービスに大きな影響があると思います。これらを考慮していただかないと，市民にとって使いやすい庁舎とならないのではないかと。

⇒（市回答）現位置の場合は，ワン・テン庁舎を除いて，本庁舎等はすべて解体して建替えとなります。その場合，仮設庁舎を整備しなければなりませんし，引越し費用も 2 回分かかります。

従って合併特例債の現在の活用上限枠は約 5 7 億円となっており，仮設庁舎整備費，移転費用には活用できますが，それら事業費のすべてを賄えるかということ，かなり厳しい状況です。合併特例債の上限を超える部分については，その他の財源を当てることを想定しております。

また，市では新庁舎建設基金として，毎年 1 億円ずつ積立をしており，建

設予定年度である令和7年度には約12億円となる予定です。

- 資料7ページに「他の防災拠点（防災センター，防災物資配送地など）」とありますが，具体的にどこを指していますか。

⇒（市回答）防災センターは，赤岩五駄鱈にある現在の気仙沼・本吉広域防災センターです。防災物資配送地は，神山川の上流にある旧ゴミ焼却場跡地に防災物資配送地を整備することで，進めています。

また，各県では「防災拠点」の考え方を示しており，岩手県の場合は，防災拠点を県域に分散させています。一方で，宮城県は，仙台駅の東側に1箇所のみ設定し，地方の拠点を別途指定することになっており，気仙沼市では，旧気仙沼西高校が指定されています。

- 資料9ページに「建設・運営管理・解体に至るまでのコスト低減への配慮」とありますが，新庁舎の耐用年数はどのくらいとお考えでしょうか。

⇒（市回答）建物の耐用年数については，技術が日進月歩していくものと思いますので，一例として回答します。

現在，全国の自治体で，過重な施設を抱えていることが問題視されており，国においても，公共施設の適正化を図るよう方針が出されています。その中で，長寿命化対策をする場合は，建設から40年で大規模な改修を行い，トータルで80年もたせるという国の考え方があります。そういった観点から，本市においても，公共施設等総合管理計画を策定しており，新庁舎についても，この考え方を念頭に進めることになると考えております。

- 現在の旧河北ビルにある教育委員会事務局は，狭あいと感じているのでしょうか。また，本庁舎と分散していることで，不便と感じているのでしょうか。

⇒（市回答）特別狭いということはないと感じています。公民館も併設されており，会議室も多数あることから使いやすい面もあります。一方で，本庁舎と分散し，さらに，災害危険区域内であるという課題があります。いずれ，教育委員会事務局は，新庁舎に戻すということで考えております。

- 旧市立病院跡地の場合，すべて解体が必要なのでしょうか。それとも，一部の建物を残して活用するのでしょうか。

⇒（市回答）南病棟及び西病棟は昭和39年，管理棟は昭和58年，増築棟は平成7年に建設されました。最も新しい増築棟でも，建設から24年が経過している状況です。

改修をして利活用する場合でも，耐荷重等の観点から，大変大掛かりな改修が必要となり，新築に近いほどの改修費用がかかることが想定されます。このことから，旧市立病院跡地となった場合は，既存建物をすべて解体した上で新庁舎を建設することで現段階では想定しております。

【意見】

- 資料は事前にすべて読みました。基本理念・基本方針については、これで良いと思います。

(2) 新庁舎に求める機能・性能と規模について

【質問】

- 人口減少が著しい状況の中で、職員数の変動も考えるべきである。現在の総合支所機能を充実させて、有効に活用できれば、新たな建物に大きなお金をかけず、将来、人口が半分になることも考慮して、既存の建物を活用するなど、身の丈にあった整備をすべきではないかと思います。

⇒ (市回答) 建物の規模については、2つの考え方があります。1つは、職員数は減るという観点、もう1つは、現在の庁舎には余裕スペースがないという観点です。

例えば、多くの先進事例では、1階部分に広いスペースがあり、様々な用途に活用できるようになっていたり、敷地の中に広場のような憩いの場があったりします。

行政機能が縮小するということを検討する必要がある一方で、豊かに市庁舎を利活用していくために、現庁舎にはない機能を持たせるための面積も検討しなくてはなりません。

縮小した部分のスペースを、別の用途として活用していくことも含めて想定しています。無駄な面積を取るべきではないということは、ご意見として承らせていただきます。

また、旧市立病院の管理棟と増築棟については、耐震性は確保されているものの、病院は通常の建物よりも床荷重が低く設計されているため、大変大掛かりな改修が必要になることも考慮しなければなりません。

- 資料 P11～P13 に参考事例として様々な写真がありますが、「市民等の集える空間 600㎡ (想定)」とは、具体的に、どのような集い、活動を想定していますか。例えば、市民がくつろげる場所、市民の部屋やギャラリー、喫茶店等、どの程度までお考えでしょうか。

⇒ (市回答) 福島県須賀川市役所の事例のように、1階のほぼ半分が広い空間となっており、年末年始を除いて、毎日、夜の8時頃まで市民に開放されています。そこには、喫茶コーナーや金融機関が設けられ、高校生の自習スペース、親子連れが遊べるキッズスペースなど、自由な空間があります。

今回の「市民等の集える空間 600㎡」については、基本構想において規模を想定するためのもので、本日のご意見や視察事例を参考にしながら、有

識者会議等で引き続き検討を進めます。本日の皆さまからのご意見も参考に、今後、計画に盛り込んでいくこととなります。

- 想定規模の算定では、2つの基準を用いているとのことですが、何を基に算定されているのでしょうか。人口によって算定されたのであれば、人口減少について加味されているのでしょうか。

⇒（市回答）規模については、基本的には人口推計や職員数に基づいて算定しております。その職員数は、新庁舎完成予定年度であります令和7年度の想定職員数を426名として算定しております。

なお、人口の考え方については、まち・ひと・しごと創生戦略の人口ビジョンでは、約60,000人と想定しておりましたが、社会人口問題研究所による将来人口推計結果を加味し、57,600人と想定した上で算定しています。

- 駐車台数は何台を想定していますか。また、公用車は何台を想定しているのでしょうか。

⇒（市回答）来庁者用として174台を想定しています。公用車は、現状として、市全体で約300台以上保有しています。完成年度には復興期間も終わり、公用車も減少することを想定し、91台と想定しております。

【意見】

- 様々な事例もありますが、気仙沼独自の新しい機能を設置していただけたら、気仙沼市が新しい時代に進んでいるというアピールにもなると思います。
- スマートフォンやパソコンが当たり前の時代になっているので、フリーWi-Fiの設置を提案したいと思います。
- 「誰にも優しく開かれた庁舎」と聞いた時に、市役所は敷居が高いものではなく、自分たちの市役所と思えるものになるのだと感じました。その上で、「市民が利用しやすい」ということだけでなく、「市民に優しい」とはどういうことなのか考えた時、ハードだけでなく、ソフト面でも職員の皆さんに頑張っていただきたい。その他にも、市民スペースの利用方法も含め、どうすれば市民に開かれた市役所が実現できるのか、様々な意見を集めて検討されたら良いのではないのでしょうか。
- 基本方針2「誰にでもやさしいユニバーサルデザインの庁舎」とありますが、県の条例にもありますので、やらざるを得ないと思います。
- ぜひ、市民の部屋のような、くつろげるスペースを設けていただきたいと

思います。

- 最終的には、有識者会議でご検討されるのだと思いますが、イニシャルやランニングコストとメリットについては、考えていただきたいと思います。
- 市民が気持ちよく利用できるように、廊下に真っ赤な絨毯を敷いてはどうか。
- メンテナンスに関しては、市の負担となることです。どの程度の負担に抑えられるのかが大きな課題だと思います。
- ワンストップ窓口については、ぜひ、今からでも取り組めることなので、やっていただきたいと思います。
- 基本理念や基本方針に、市民の利便性に関する内容がありますが、建物の周辺環境もあわせて考えていただきたい。例えば、宮城県美術館は、玄関からエントランスホールまで自由に通り抜けできるようになっています。周辺に小さな公園があって、芝生でお弁当を食べたりする空間もあります。今回の基本理念や基本方針を実現するためには、建物だけでなく、その周辺環境も含めて、市役所に用事がなくても市民が利用できるものを考えていただきたいと思います。

(3) 建設候補地の選定について

【 質 問 】

- 気仙沼公園は、代替公園用地の問題があります。交通の利便性の観点では、現位置、旧市立病院跡地は不便だと思います。なぜこの3箇所なのですか。
- 他の事例を見ると、広い敷地に建設している自治体もありますが、気仙沼市はなぜ狭い敷地を選ぶのでしょうか。旧気仙沼西高校の敷地が一番広いですし、内湾地区周辺以外にも、広い敷地はあるのではないかと。
- 人口重心から5km以内という理由は何ですか。唐桑から小泉までの範囲内を想定すべきではないでしょうか。
- 現位置の場合、現在の業務に支障がないようにするために、どのようなこととお考えですか。

⇒ (市回答) 現位置の場合、仮設庁舎を整備することになります。それには、整備費もかかりますので、例えば、廃校舎の活用等も想定されます。今後、さらに検討を進めて参ります。

- 建設候補地については、一長一短はあるが、現位置または旧市立病院跡地の場合は、どちらかの既存の建築物が残ってしまいます。残ったほうをど

うするののかも考慮しながら決めていくべきだと思います。

建設費用で見ると、気仙沼公園が最も有利かと思うが、一方で、アクセス道路が狭いというデメリットもあります。

また、現位置は敷地が狭いので、新庁舎は建設できたとしても、将来同じ敷地に建て替えることは難しいと考えます。

⇒（市回答）建設地とならなかった土地の既存の建築物については、いずれにしても解体しないといけないと考えております。また、その跡地についても、基本的には利活用することを考えております。

今回の新庁舎建設との関連はありませんが、新市立病院建設に際し、旧市立病院跡地の活用方策についても検討しており、跡地は利用することを前提にしております。

建設費用との関係ですが、合併特例債は、建設費の95%に対して7割の補填となります。現在、想定している新庁舎の規模で考えると、解体費については別途予算が必要となります。これについては、費用90%に対して4割の補填となる、合併推進債の活用を想定しております。この2つを上手く活用することで、候補地となった場所の建設費および解体費については、賄えると考えております。

一方で、建設地とならなかった土地について、既存建物の解体のみの合併推進債の活用はできないことになっております。

建物の建設費、造成費等の費用について、現段階で正確に把握することが難しい状況です。今回の基本構想の段階では、費用については考慮に入れますが、正確な数字を基に結論を出すのではなく、結果として出された見解に対して、市として努力していかなければならないと考えております。

- 今後、1箇所絞るまで、どのように進めていくのでしょうか。市民の方々の意見を改めて聞く機会があるのでしょうか。それとも、有識者会議での結果を踏まえて、決めることになるのでしょうか。いずれにしても、市民が納得できるような材料が必要と思います。例えば、気仙沼公園の代替地、現位置の場合の仮設庁舎の場所や移転費用などの詳細な条件を提示する必要があるのではないかと思います。

⇒（市回答）資料の20ページをご覧ください。候補地を1箇所に絞るまでの流れについてお示ししてあります。まず、本日の意見交換会でのご意見を取りまとめ、ホームページ等で公開しながら、全市民を対象に「意見の募集」を行います。これらの集めたご意見も参考とし、次回の有識者会議で候補地を1箇所に絞りたいと考えております。

その方法については、庁舎位置の基本方針に基づき、評価項目を設定します。その評価項目ごとに、各候補地についてのメリット・デメリット等により評価を行い、最終的に総合的な評価を行い1箇所に絞りたいと考えております。

- 全市民を対象に意見の募集を行うとのことですが、その結果をきちんと有識者会議に諮っていただけるのですか。今回の意見交換会の内容と、アンケートの内容を市民に周知した上で意見を募集し、その結果もしっかりとフィードバックしていただきたいと思います。

⇒（市回答）本日の意見交換会の内容を公表しながら、全市民を対象にした意見の募集をお願いすることになります。全市民を対象にした意見の募集の内容は、本日、皆さまにお配りしているアンケートと同じ内容になりますので、本日お配りしたアンケートと合わせてとりまとめを行います。有識者会議については、意見交換会やアンケート結果、意見の募集等の内容を踏まえて、会議を進めていくこととしております。

【意見】

- 用途地域の変更については、簡単なことではないと思いますので、十分にご検討いただきたいと思います。
- 基本理念・基本方針についての説明にもありましたが、現位置は、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されています。
気仙沼公園、旧市立病院跡地は、どちらも高い場所なので津波の心配はないかと思います。東日本大震災の際、断水が続いたが、旧市立病院跡地周辺の地区は、その日のうちに水が出たようだ。病院があるということで、ライフラインがしっかりしているのだと聞いていますので、候補地選定の際の参考になればと思います。
- 候補地が1箇所に絞られた際に、どのような条件で決まったのか、明確に説明できるようにしていただきたいと思います。
- ぜひ、新庁舎は市の中心地にあるという考えのもと、産業、文化、歴史などを考慮しながら決定して欲しい。特に、まちづくりとの関連性や、現位置になくなった場合どうなるのかといったことも含め、総合的に判断すれば、自ずと答えが出てくると思います。
- 現在の庁舎については、大きく2つの課題があると思います。1つは老朽化です。耐震性の確保のためには、新庁舎の建設には大いに賛成です。もう一つは、敷地面積が狭く、市民の駐車場も狭あいであるということです。今後、敷地を決定される場合には、これまで困っていたこと、課題が解決できるようにして欲しいと思います。敷地面積が十分に広いということは、建物や駐車場以外のスペースを様々なかたちで活用可能であるということです。例えば公園など、余裕スペースを十分に確保できる場所を設定していただきたいです。
- 気仙沼公園に関しては、急な坂となっており、冬を考えると厳しいのでは

ないかと思えます。現位置については、そこまで急な坂ではないですが、津波を考えるともう少し高いところが望ましいと思えます。

旧市立病院跡地に関しては、以前と同じアクセス道路であれば、気仙沼公園と同様に急な坂となりますが、南側からのアクセスとなれば、費用もかかるかと思えます。

災害対応はもちろんのこと、冬の雪道対策も含めて、ご検討いただきたい。

- 市役所が移転することは、経済活動に大きな影響があるので、メリット・デメリットを考える際に、経済的視点も踏まえるべきだと思います。また、三日町、八日町は中心市街地という位置づけで、これまで様々な事業が展開され、地域の皆さまも時間とお金をかけて、取り組まれてきていると思えますので、候補地選定の際は、これまでの経緯との整合性にも触れる必要があると思えます。旧市立病院跡地周辺の商店街も、市立病院の移転後は、大変厳しい状況だと伺っております。

仮に、市役所が移転した場合、どのような経済活動が考えられるのか、市民の皆さまと密に協議をして、進めていただきたいと思えます。

- 基本理念に「誰にでも優しく開かれた庁舎」、基本方針には「市民が利用しやすい位置」とあるが、この先、高齢化が進み、自家用車での来庁が困難となってきますので、交通アクセスの充実が大前提となると思えます。
- 人口減少が進む中、地方銀行も5年以内に半分になり、旧総合銀行も5年以内になくなります。このような状況を鑑みて、庁舎のメンテナンス等も踏まえると、大きければ良いということではないと思えます。
- 現在も、書類の発行等でコンビニを活用していますが、今後、納税等もパソコンでできるようになり、市役所に足を運ばなくなってくることも踏まえて、検討していただきたい。
- 市民の意見がどれだけ反映されるのか疑問です。意見交換会やアンケート調査結果はしっかりと公表した上でご協議いただき、どのような流れで進められているのかが市民も分かるように残していただきたい。

⇒ (市回答) 本日のご意見については、記録に残しますので、機能・性能の内容については、予算の問題があるので実現できるものとできないものもありますが、ご意見が反映されているかどうかは分かると思えます。位置の問題については、今後のアンケート結果等も含め、合理的なご意見や多かったご意見等については反映させた上で、候補地の評価がなされていくと思えます。すべてを反映させることは難しいかもしれませんが、有識者会議の皆さまと協議しながら進めていきたいと思えます。市民の皆さまからいただいたご意見は公表しますので、どのように反映されているか

については、そのプロセスから見て取れると考えています。

- 新聞報道等で、旧市立病院跡地の1番の問題点は解体費用だという内容が散見されますが、これまで市立病院を支えてきた地域の皆さまに大変失礼だと思えます。

新庁舎が旧市立病院跡地に移転しようがしまいが、既存の建物は早期に解体することが基本だと考えます。その解体費用が高いから、新庁舎の移転が難しいという議論がなされるのはおかしいのではないかと。

⇒（市回答）報道のお話でしたが、真実は逆だと思います。解体費用については、建物の整備と併せなければ有利な財源が捻出できません。それは、現位置でも旧市立病院跡地でも同じ条件になります。

- 住民の意見の強さはそれぞれあると思います。アンケート結果等に基づいて評価基準を決め、有識者会議で検討するということですが、住民投票をしても良い議題だと思います。より多くの市民意見を集める方法はないでしょうか。

- 気仙沼市は、合併して大きくなりました。皆さんが、現位置の近くに建てたいという気持ちはわかりますが、市役所は市民のためのものであって、水産だけのためのものではないと思います。

(4) その他

【 質 問 】

- 教育委員会がある旧河北ビルは解体しないのでしょうか。

⇒ (市回答) 市としては、施設が存続する方向で考えています。

【 意 見 】

- ぜひ、今後のアンケート等の結果を踏まえて、有識者会議で検討していただきたいです。
- 本日の意見交換会にいらしてる方を見ると、若い方が非常に少ないです。10代、20代の若い世代を呼べば、より幅広い意見が出るのではないかと。

以上